

強者の戦略

今回の問題は幾何の有名不等式の証明でした。
それでは、まず問題の確認です。

問題

平面上の互いに異なる4点A, B, C, Dについて、
複素数を用いて次の不等式が成り立つことを示せ。

$$AC \times BD \leq AB \times CD + AD \times BC$$

等号が成立する条件についても、言及すること。

証明すべき不等式の不等号を等号に置き換えると、円に内接する四角形ABCDに関する定理である「トレミーの定理」となります。これを一般的な四角形に拡張したものが証明すべき不等式で、「トレミーの不等式」とか「オイラーの公式」と呼ばれるものです。

この不等式を証明するために、次の2つの補題を証明しておきます。

補題1

相異なる4つの複素数 $\alpha, \beta, \gamma, \delta$ で表される4点が、同一円周上または同一直線上にあるための条件は

$$\frac{(\alpha-\beta)/(\alpha-\delta)}{(\gamma-\beta)/(\gamma-\delta)}$$

が0でない実数であることである。

証明

2π の整数倍を無視して

$$\arg \frac{(\alpha-\beta)/(\alpha-\delta)}{(\gamma-\beta)/(\gamma-\delta)} = \angle\gamma\beta\alpha - \angle\gamma\delta\alpha$$

である。

さて、4点 $\alpha, \beta, \gamma, \delta$ が同一円周上または同一直線上にあるとして、次の2つの場合に分けて考える。

(1) 2点 α, γ が2点 β, δ を分離しない場合

$$\angle\gamma\beta\alpha = \angle\gamma\delta\alpha \iff \arg \frac{\alpha-\beta}{\gamma-\beta} / \frac{\alpha-\delta}{\gamma-\delta} = 0$$

よって、 $\frac{(\alpha-\beta)/(\alpha-\delta)}{(\gamma-\beta)/(\gamma-\delta)}$ は正の実数である。

(2) 2点 α, γ が2点 β, δ を分離する場合

$$\angle\gamma\beta\alpha = -\angle\gamma\delta\alpha \iff \arg \frac{\alpha-\beta}{\gamma-\beta} / \frac{\alpha-\delta}{\gamma-\delta} = \pm\pi$$

よって、 $\frac{(\alpha-\beta)/(\alpha-\delta)}{(\gamma-\beta)/(\gamma-\delta)}$ は負の実数である。

以上より、示せた。

補題2

任意の4つの複素数 $\alpha, \beta, \gamma, \delta$ に対して、等式

$$(\alpha-\gamma)(\beta-\delta) = (\alpha-\beta)(\gamma-\delta) + (\alpha-\delta)(\beta-\gamma)$$

が成り立つ。

証明

両辺を展開して整理すると、ともに

$$\alpha\beta - \delta\alpha - \beta\gamma + \gamma\delta \text{ となり、成り立つ。}$$

よって、示せた。

それでは、解答です。

4点A, B, C, Dを表す複素数を $\alpha, \beta, \gamma, \delta$ とおく。

補題2の恒等式の両辺の絶対値をとって、

$$|(\alpha-\gamma)(\beta-\delta)| = |(\alpha-\beta)(\gamma-\delta) + (\alpha-\delta)(\beta-\gamma)|$$

右辺で三角不等式を用いると、

$$|(\alpha-\gamma)(\beta-\delta)| \leq |(\alpha-\beta)(\gamma-\delta)| + |(\alpha-\delta)(\beta-\gamma)|$$

となり、不等式

$$AC \times BD \leq AB \times CD + AD \times BC$$

が成り立つ。

等号は、 $\arg(\alpha-\beta)(\gamma-\delta) = \arg(\alpha-\delta)(\beta-\gamma)$

$$\iff \arg \frac{(\alpha-\beta)(\gamma-\delta)}{(\alpha-\delta)(\beta-\gamma)} = 0$$

$$\iff \arg \frac{(\alpha-\beta)(\gamma-\delta)}{(\gamma-\beta)(\alpha-\delta)} = \pi$$

$$\iff \frac{(\alpha-\beta)/(\alpha-\delta)}{(\gamma-\beta)/(\gamma-\delta)} \text{ が負の実数のとき成立。}$$

補題1より、等号はA, CとB, Dが同一円周上または同一直線上にあつて、互いに分離される時に限って成立する。